

T-ART 実践報告会

芸術の力を活かした多文化共生社会づくりという共通目標のもと、各地の団体やアーティストの実践活動を紹介し、報告者と参加者間の対話を通じて、T-ART活動に関する情報共有と理解を深めます。

第1部では、TJFが2017年度より東京・広島・富山で展開してきたPCAMPに関して、ファシリテーターを務めた演劇や身体表現を専門とするアーティスト、共同主催者など、様々な立場と視点から報告していただきます。

第1部

共に創る・育てる PCAMP!

報告者

柏木 俊彦

KASHIWAGI Toshihiko 演出家・舞台俳優



木野花ドラマスタジオ出身。2010年に第0楽章を設立、代表と演出を担う。プロデュース公演などにも、演出、俳優、ドラマタッグなど様々なカタチで参加。地域プロジェクトや海外プロジェクトの企画運営、教育機関や福祉施設でのワークショップ活動など多岐にわたり活動。近年は、さまざまなバックグラウンドをもつ人たちとワークショップや創作活動も行っている。調布市せんがわ劇場演劇ディレクター。NPO法人 SEED OF ARTS代表。2021年よりメイン・ファシリテーターとしてPCAMPに関わる。

“私にとってのPCAMP”

PCAMPは、アイデアとアイデンティティの集合体。それぞれが「する」「いる」というシンプルな構造。でも、「する」「いる」が連なり重なり支え合って、パフォーマンスは無限の広がりを見せていく。

田畑 真希

TABATA Maki 振付家・ダンサー



タバマ企画主宰。3歳からクラシックバレエを始める。更なる表現を追及するため桐朋学園短期大学演劇科に入学。様々なジャンルの身体表現を学ぶ。滑稽なまでにガムシャラに、ユーモアを散りばめながら丁寧に時間を紡ぐ作風に定評があり、国内外で活動。7ヵ国18都市にて作品を上演し好評を得る。近年は、インクルーシブダンスWSや作品創作、様々な世代を対象としたWSを展開し、性別、年齢、国籍、障がいの有無などの差異を超えて、誰もが楽しみながらできる身体表現の促進を目指し活動中。2019年よりメイン・ファシリテーターとしてPCAMPに関わる。

“私にとってのPCAMP”

PCAMPは、一人ひとりの思い出や大切にしていることを参加者同士でシェアしながら作品をつくります。仲間と分かち合う喜びがミルフィーユのように積み重なる体験の場。これがPCAMP!

坂田 光平

SAKATA Kohei 舞台俳優・舞台美術



舞台芸術制作室無色透明所属。介護福祉士。2016年より始まった舞台芸術制作室無色透明とNPO法人ひゅーるぼんとの協働事業の中で生まれた障がいのある人もない人も参加できる演劇団体「おきらく劇場ピロシマ」の旗揚げメンバー。舞台芸術を通じて子どもたち、障がいのある人たち、地域の人たちが、相互につながりながら共にいきいきとくらしていける街をめざし、演劇活動を続けている。広島在住。2022～2024年、3回にわたって開催した「ひろしまPCAMP」においてサブ・ファシリテーターを務める。

“私にとってのPCAMP”

PCAMPとは、人と人が出会うだけで物語が生まれ、共に過ごし理解し合おうと一歩踏み込める体験ができる場所。

長谷川 万葉

HASEGAWA Mayo 舞台俳優・専門学校教員



宝塚歌劇団出身。青葉みちるの名で月組娘役として活躍。富山にUターン後、富山市民プラザにてコンテンポラリーダンスのワークショップや市民参加型舞台や赤ちゃんママのための広場事業を企画制作。現在は県内の専門学校に勤務。演劇的手法を使ったコミュニケーション授業を担当。その傍らミュージカルソング講座や高校合唱部にてダンス振付・指導も継続的にやっている。グローバルドラマティーチャー1級。2024年より「とやまPCAMP」のサブ・ファシリテーターを務める。

“私にとってのPCAMP”

PCAMPでは仲間と共に遊び、笑い、涙しながら、相手を知り、新しい自分に出会う。4日間と短いけれど、まだ見ぬ新しい世界が広がる冒険の旅。

税光華

ZEIKO Hana 一般財団法人地域創造 職員



撮影：藤尾勘太郎

損害保険会社勤務の2019年、「AUBADE HALL Produce タニノクロウ × オール富山『ダークマスター 2019 TOYAMA』」で舞台美術製作に参加したことをきっかけに、2022年、オーバード・ホールの運営団体である公益財団法人富山市民文化事業団に入職。制作として「AUBADE HALL Produce タニノクロウ × オール富山『ニューマドンナ』」ほか、ワークショップなどを担当する。2024年、2025年、TJFと事業団の共同主催で「とやまPCAMP」を実施、現地運営を担う。現在は一般財団法人地域創造に出向中。

“私にとってのPCAMP”

PCAMPを通して新しい世界に飛び込みました! たくさんの出会いがあり、本当に楽しいです。TJFやファシリテーターとアイデアを出し合いながらつづいています。

T-ARTロゴに込められたメッセージ

- 溢れてくる生命力
- 新たに創造されていく価値観
- 子どもたちの会話が飛び交う様子



多文化 × 芸術

- 多文化と芸術の融合
- 緩やかで伸びやかなつながり
- 響き合う多様性

T-ARTは「多文化 × 芸術」の愛称。**T**は**Tabunka**(多文化)、**Teaching Artist**、TJFの頭文字から取りました。「**多文化 × 芸術**」事業(T-ART事業)とは、TJFが2017年度より取り組んできた「芸術の力を活かした多文化共生社会づくり事業」の総称です。この事業をTJFと共に育ててくれたアーティストの皆様と「**多文化 × 芸術**」ネットワーク(T-ARTネット)を2025年度に立ち上げるに当たり、T-ARTロゴを作成しました。

ロゴはデザイン・モイのアートディレクターである今泉明子氏の力作です。T-ARTのコンセプトに共感し担当者の思いも汲んで考案してくれました。今泉氏は「未来を生きる子どもたちのために多文化共生社会づ

くりにかかるTJFの志、担当スタッフ、アーティストや協力者の思いをロゴという形で表現するお手伝いができて、ワクワクした」そうです。

ロゴづくりに関わったスタッフは、完成したロゴを前にして「T-ARTが4本足で歩いている生きものみたい!」「若木が上へ上へと成長していく感じがする」「多様性がプチプチと響き合っている音が聞こえてくる!」という感想を持ちました。

T-ART事業とともにこのロゴを広く皆様に知っていただき、より多くの「芸術の力を活かした多文化共生社会づくり」の理解者、実践者が、T-ARTの仲間に加わってくださることを願っています。

